

史料目録 第80集

信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録
(その2)

平成17年 3月

人間文化研究機構国文学研究資料館
アーカイブズ研究系編

史料目録 第80集

信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書目録

(その2)



写真1 穀蔵（右側入口）と二間蔵（左側入口）



写真2 穀蔵2階内部。当館所蔵分はかつてここに収納されていた。



写真3 大段ボール箱の内部



写真4 大こおりの外見



写真5 466の束。「雑」の荷札が付くが、多数の仕切状等を含む。



写真6 二間蔵2階内部。今も多くの書籍を収納している。

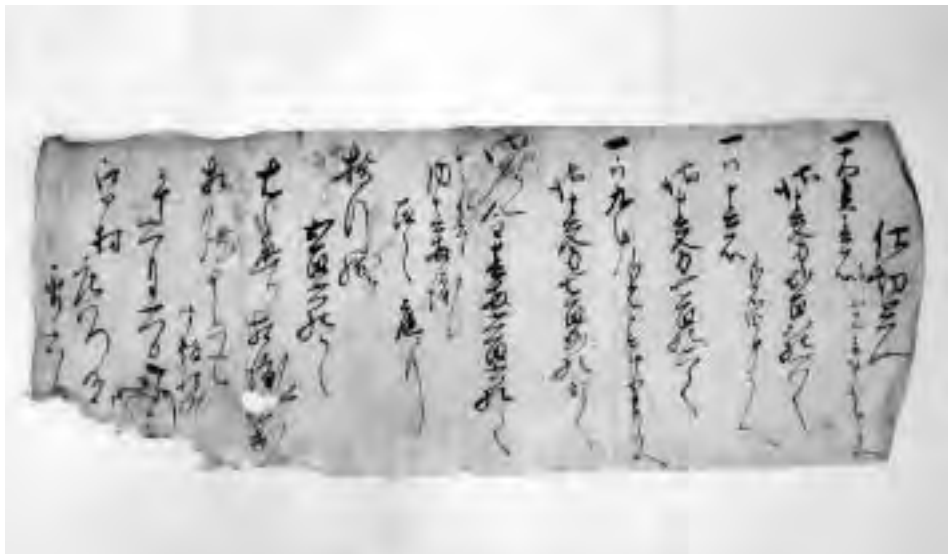


写真7 須坂新町五郎兵衛の大豆仕切覚（466-168）

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第80集として「しなのくにたかいくんひがしえむらやまだしょうざえもんけもんじょ信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書（その2）」を収めた（以下では、目録（その2）と略す。他も同様）。目録（その1）は第75集として既刊、目録（その3）は第81集として来年度刊行予定である。文書群名については、同村の山田理右衛門家文書（マイクロフィルム紙焼本）を当館で所蔵しているのので、これと区別するために通名をあわせて表記した。
- 2 目録の編成にあたっては文書群の階層構造に留意し、ISAD(G)(国際標準：記録史料記述の一般原則)の考え方も参考にしつつ、大・中・小項目で編成する方式をとった。大項目はすべてサブフォンドに相当し、中項目以下はシリーズまたはサブ・サブフォンドなどである。
- 3 袋・こより紐などによる一括史料は一括掲載し枝番号付与で物理的階層を示すことを原則としたが、その必要がないと判断し一括を崩して配列した場合もある。袋や包紙の表書を一括表題として採用した場合は「 」で表記した。小項目内は原則として現状順に配列した。重出については表題の先頭に*を付した。
- 4 史料の集合的記述は、フォンドとサブフォンドのレヴェルで解題を記した。なお、目録（その1）と重複する説明も多いため、その内の一部の記述や図表については省略した。
- 5 史料1点ごとの記述は、表題・作成等（表題、作成 宛所、備考）、年代（作成年月日）、形態・数量、整理番号、の順に記載した。

表題は、冊子型史料も書付型史料も原表題もしくは柱書を取り、それが無い場合には（ ）で仮表題を付与した。原表題や柱書だけで不十分な場合は、その後に（ ）で内容を摘記した。

形態は、冊子型史料の場合、半（半紙縦折判）、美（美濃紙縦折判）、横長半（半紙横折判）、横長美（美濃紙横折判）、横半半（半紙半裁横折判）、横美半（美濃紙半裁横折半）などの略称によって原書の大概を示した。書付型史料の場合、縦紙、折紙、縦切紙、横切紙、縦継紙、横切継紙、小切紙、などと表記した。また絵図など大きいものは寸法をタテ×ヨコのようにミリ単位で表記した。

なお、端裏書、印刻、包紙・封筒上書等については、特に必要と思われる場合に、必要な部分に限って記した（表題・作成等との間で情報が重複する煩雑さを避けるため）。
- 6 本目録では史料が保管されてきた秩序に応じて史料番号を付与したため、目録上で史料が番号順に並んでいない。そのため番号による検索には不便をきたすので、史料の引用に際しては番号のほか掲載頁もできるならば併記することをお願いしたい。
- 7 本目録はアーカイブズ研究系山崎圭が担当し、2003・2004年度に松本剣志郎（東洋大学大学院生）がデータ作成の補助にあたった。

[付記]

本目録の作成に当たっては山田顕五氏はじめ山田家の皆様、中野市教育委員会、長野県立歴史館、その他御名前をすべて列挙することはできないが、多くの方々・諸機関のご協力をいただいた。特

に山田正子氏（山田家長女、元長野県史編纂室）には山田家の歴史・史料にかかわって多くの御教示をいただいた。ここに記して謝意を表する。

総 目 次

口 絵

凡 例

総目次

本文細目次〔文書群の構造〕 1

山田庄左衛門家文書全体解題 5

 文書群記号

 文書群名

 年 代

 数 量

 入手の経緯

 山田家の歴史

 文書群の構造と内容

 文書群の形態と整理の方針

 関連史料

 参考文献

目録本文（個別解題）

 家 9

 地主 73

 諸経営 107

 堤防組合総代 167

 村役人 187

 近代の役職 193

 書状入袋 203

 郷村仮会所・富田屋 215

付録・マイクロ収集史料目録（1）・（2）

掲載図表一覧

図	表
図1：江部および中野・長野周辺地図 6	表1：山田顕善履歴 6
図2：山田庄左衛門家系図 10・11	表2：帳崩れ中の解体された帳簿 12
	表3：山田庄左衛門家の所持高 74
	表4：東江部村村役人表 188・189
	表5：第19大区の構成 193

本文細目次〔文書群の構造〕

家	9
経営	14
家計	
込入勘定	
奉公人・雇傭	
台所	
納税	
印紙類売捌	
家政	63
相続	
婚礼・養子縁組	
法事・寺社	
家普請	
交際	
日記・文化	
情報	
地主	73
所持地改	77
土地移動	77
綿内村質流地受取関係	
川直地替	
廃道払下	
その他	
小作証文	82
地主小作関係帳簿	87
小作料収納	88
相論・訴願	91
新保村小作相論	
吉田村小作相論	
その他	
小作人合力	99
年貢諸役負担	100
諸経営	107
金融	110
借用願・返済延期願	
借金証文	
返済訴訟	
無尽	
大名貸	
本多氏借財整理	
貸金帳簿	
その他	
酒造	136
酒株	
酒造改	
酒販売	
湯田中店	
その他	
水車	138
貸家	138
穀物等売買	138
綿作・販売	147
北信商社	148

二分金・金札等引換	差加金	商社金貸付	
商社事件	諸入用	その他	
証券投資・銀行業			162
横浜生糸合名会社	第六十三国立銀行	信濃銀行	
信濃貯金銀行	信濃電気株式会社		
江部製糸場			165
鉦山			165
堤防組合総代			167
慶応以前			169
慶応期堤防工事			169
組合村々水難高取調	村々評議	江戸訴訟	
人足・諸入用	絵図		
千曲川瀬直し			180
出願・相論	会計所御用	人足・諸入用	
村役人			187
領主関係			191
夫食拝借			191
相論			191
普請			191
その他			192
近代の役職			193
幕末維新期の陣屋・県御用			195
第19大区副区長			195
地租改正	区会	大区会所経費	県道工事
その他			
下高井郡全部組合会			202
貴族院議員			202
書状入袋			203
郷村仮会所・富田屋			215

信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書 全体解題

文書群記号	32H
文書群名	信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書（その2）
年代	内容年代 万治3（1660）年～昭和11（1936）年 成立年代 元禄11（1698）年～昭和17（1936）年
数量	今回目録掲載分4016点（枝番号をも1点と数える目録上でのレコード数）

今回整理したのは大段ボール箱入り（口絵写真3）の全てと、大こおり入り（同写真4）の大半である。この他に当館所蔵分の未整理のものとして、小ダンボール箱2、りんご箱1、大こおり入文書の一部がある。

入手の経緯

この文書は、1957（昭和32）年に文部省史料館が、原蔵者である山田顕五氏（長野県中野市江部在住）より直接譲り受けたものである。第2次大戦前、山田家の古文書は敷地内の「三階蔵」と呼ばれる蔵に一括保管されていたが、戦争中にこの蔵を売却したため、その際に文書を質蔵、文庫蔵、二間蔵、穀蔵に移して、別々に保管していた。その後、1957年に穀蔵収納分の文書について文部省史料館が譲渡を受けた。質蔵、文庫蔵、二間蔵には今日でも総計で1万点をこえる多量の文書が残されている（アーカイブズ研究系ではこの分についても調査を進めて、中野市教育委員会と協力しながら目録刊行を目指している）。

以上のように山田庄左衛門家文書は現在、東京と中野の2か所に分かれて保管されているが、本目録では、同文書のうち当館所蔵分を「当館分」、山田顕五氏所蔵分を「現地分」と呼んで区別することにしたい。

山田家の歴史

（1）東江部村の概要

山田家の歴史について述べる前に、まず同家が存在した東江部村について説明しておきたい。信濃国高井郡東江部村は中野扇状地の末端から千曲川沖積地にかけて開け、延徳田圃（えんとくたんぼ、近世では圓徳の字が当てられることも多い）の北縁に位置する。延徳田圃は延徳年間（1489 - 92）に開発されたといわれる低地帯で、千曲川の氾濫原である。中世には東江部・西江部あわせて江部郷と称されたが、慶長検地以前に村切りが行われて分離した。山田家はこの地を開発するために近世初頭に土着したとみられる。

東江部村の領知関係は、はじめ松代藩領（森忠政、松平忠輝）、慶長8（1603）年から飯山藩領、元和2（1616）年から幕府領、同5年から福島正則領、寛永元（1624）年から幕府領、天和2（1681）年から坂木藩領、元禄15（1702）年から幕府領、正徳元（1711）年から飯山藩領、享保2（1717）年から幕末まで幕府領であった。周辺地域全体は、初期の変動を経たのち18世紀以降は主なところで幕府領・松代藩領・飯山藩領などの村々によって構成された。この時期東江部村が属した幕府領は概ね中